

2019年3月期 第3四半期

# 決算説明会

日本電産株式会社



2019年1月23日



## －注意事項－

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

表紙の写真は、当社が発行株式総数の48%を取得した台湾CCI社が保有するペーパーチャンパーです。第5世代移動通信システム「5G」やAI技術の進歩により、スマホやサーバー等、各種通信・情報機器のさらなる高性能化が予想されます。処理速度の向上に伴い発熱も増大するため機器の冷却が大きな課題となり、当社グループのラインナップに本製品群が加わったことで、より付加価値の高いソリューションの提供が可能になります。

## ■ 連結決算業績



(百万円)	17年度 第3四半期(累計)	18年度 第3四半期(累計)	前年比	18年度 通期見込
売上高	1,105,921	1,154,306	+4.4%	1,450,000
営業利益	126,160	129,367	+2.5%	145,000
営業利益率	11.4%	11.2%	-	10.0%
税引前利益	118,756	131,298	+10.6%	140,000
当期利益	93,984	103,214	+9.8%	112,000
一株利益 (円)	317.43	349.90	+10.2%	379.91
対米ドル為替レート				
平均...	111.70円	111.14円	-0.5%	100.00円
期末...	113.00円	111.00円	-1.8%	(4Q想定レート)

為替感応度：1円あたり米ドルは売上高90億円、営業利益11億円、ユーロは売上高17億円、営業利益4億円（全てFY18通期ベース）

3

## ■ 第3四半期、連結決算ハイライト



- 2Qまでの経営環境が11月以降に一変。想定以上の需要減と大規模な在庫調整の進行により通期ガイダンスを大幅下方修正も、3Q累積業績は売上高、営業利益、税前利益、当期利益の**全項目で過去最高を更新**。
- 一方で、3Qより当社独自の収益改善活動を始動。引き続き、足元の市場環境を深刻に受け止め、One Nidec体制による購入コストの更なる低減や、支出の徹底抑制を行なうことで**修正後業績予想値の達成**に向けて総力で挑む。

4

## ■通期業績見込の下方修正



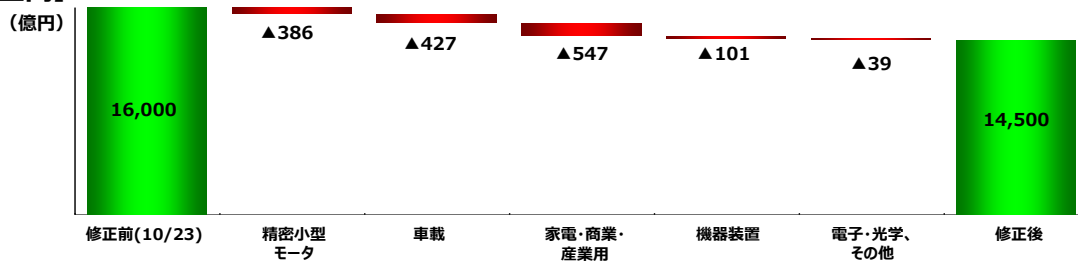
(単位：百万円)	【旧ガイダンス】		①	②	①-②
	期初提示 (18年4月24日)	直近提示 (18年10月23日)	今回修正 (19年1月17日)	3Q累計実績	4Q(1-3月期) 見込み
売上高	1,575,000	1,600,000	1,450,000	1,154,306	295,694
営業利益	190,000	195,000	145,000	129,367	15,633
営業利益率	12.1%	12.2%	10.0%	11.2%	5.3%
税引前利益	185,000	187,500	140,000	131,298	8,702
当期利益	145,000	147,000	112,000	103,214	8,786
一株利益(円)	489.93	498.63	379.91	349.90	30.01
為替レート (対米ドル)	100円	100円 (下期想定レート)	100円 (4Q想定レート)	111.14円 (3Q平均レート)	100円 (4Q想定レート)

5

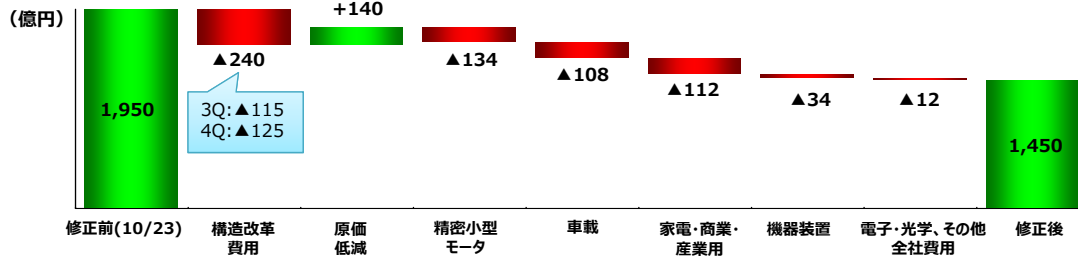
## ■2018年度(通期業績見込)の修正前・修正後の分析



### 【売上高】



### 【営業利益】

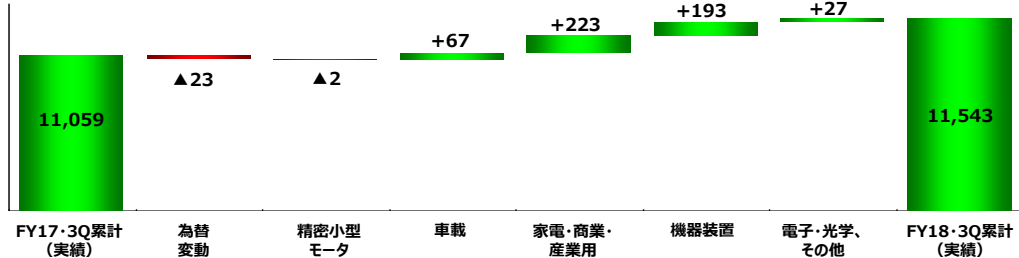


6

## ■2018年度3Q（累計）の前年同期比増減分析

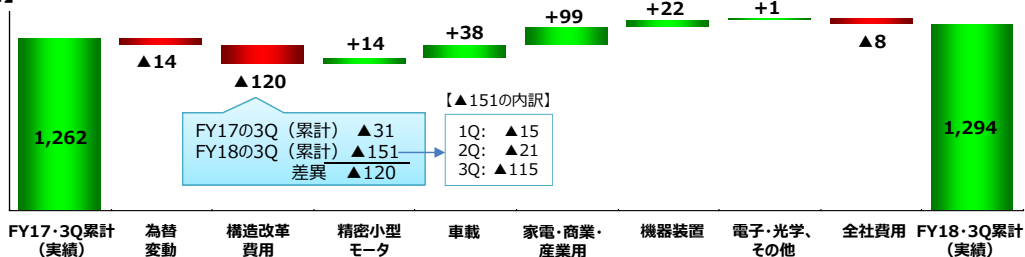
### 【売上高】

(億円)



### 【営業利益】

(億円)

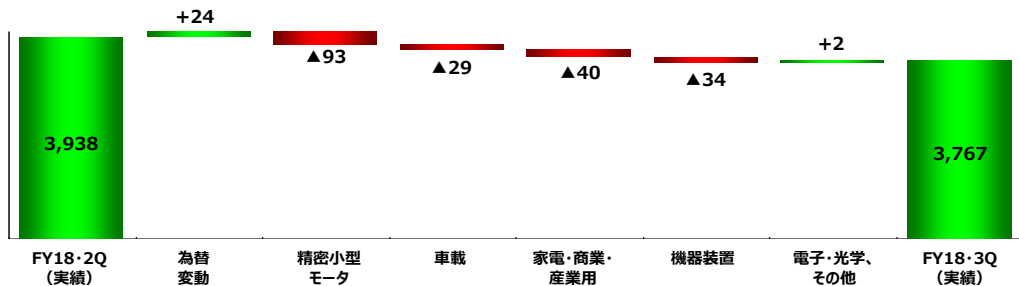


7

## ■2018年度3Q（3ヶ月）の直前四半期比増減分析

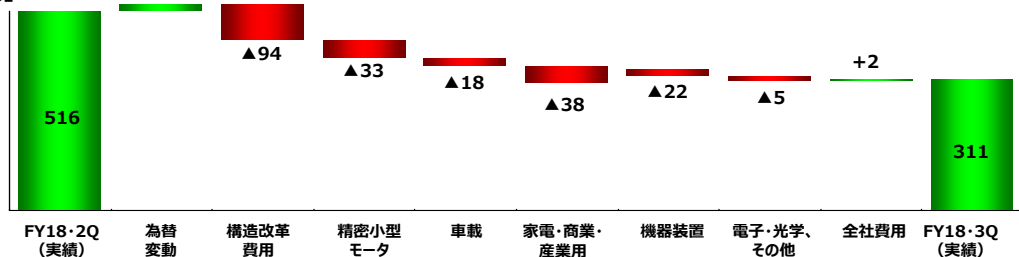
### 【売上高】

(億円)



### 【営業利益】

(億円)



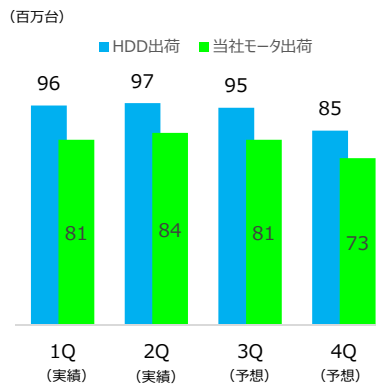
8

## ■精密小型モータ：HDD市場の短期トレンド



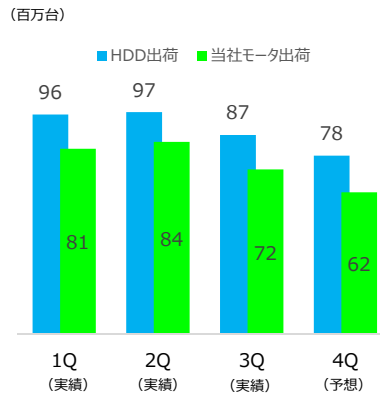
### 【直前回のガイダンス】 (FY18、2Q決算時)

FY18のHDD市場と当社モータ出荷予想



### 【今回のガイダンス】

FY18のHDD市場と当社モータ出荷予想



HDD市場の短期見通し  
を下方修正

(百万台)

	直前回の 予想	今回の 予想
FY18 通期合計		
HDD市場	373	358
当社モータ	319	299

(日本電産推定)

# 中期戦略目標

## *Vision2020*

■ 事業環境：従前の「4つの大波」に新たに加わる「5Gの大波」



クルマ・ロボティクス・省エネ家電・ドローン用途等、創業以来の大波が続々と到来

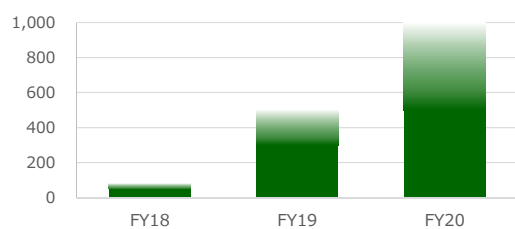
<p><b>クルマの電動化、EV・PHEV</b></p> <p>内燃機関から電気へ。 100年に1度の技術革新</p>  <p><b>脱炭素化の波</b></p>	<p><b>ロボット活用の拡がり</b></p> <p>協働型ロボットが食品・物流・サービス分野へ。市場急拡大</p>  <p><b>ロボット化の波</b></p>
<p><b>5G通信に起因する様々な次世代技術</b></p> <p>通信速度100倍がもたらすハードウェアの技術革新</p> <p><b>デジタルデータ爆発の波</b></p> 	
<p><b>家電製品のブラシレスDC化</b></p> <p>コードレス化や高機能化。 家電製品の技術革新</p>  <p><b>省電力化の波</b></p>	<p><b>農業・物流の省人化</b></p> <p>人手不足の深刻化。 第4次産業革命が追い風</p>  <p><b>物流革命の波</b></p>

■ 「飛び出すカメラ」の動力機構を量産開始

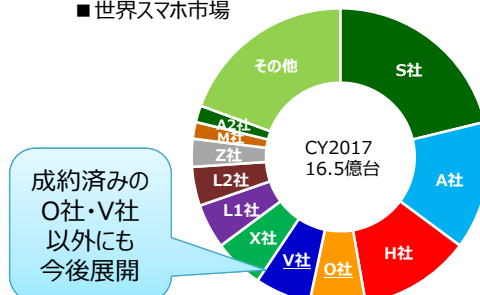


動力機構	Pop-up方式 カメラ機構	Slide-up方式 カメラ機構
外観イメージ		
当社の一体型モジュール部品		

(億円) ■ 「動力機構」の市場規模



■ 世界スマホ市場



スマホ前面のフルディスプレイ化を実現するため、カメラ機構の配置を従来のディスプレイ面上からスマホ内部に収納。使用時のみ飛び出す機構。

■ TOB案件：台湾CCI社の株式取得（48%）を完了

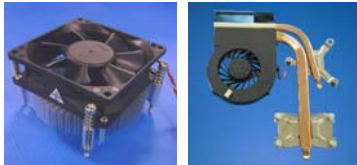


サーマルソリューション需要は、当初の通信・IT関連市場以外にも大きく拡大

通信・IT関連市場

ファン単品から、サーマルモジュール市場へ本格参入

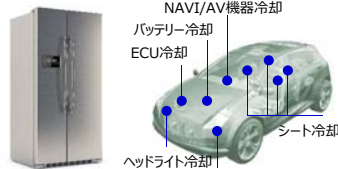
- ファン
- +
- ヒートシンク
- ヒートパイプ
- ベアパーチャムパー



車載・家電市場

サーマルソリューションを、車載や家電市場へ水平展開

- 車載は、EV化/ADAS/コネクテッドで搭載ECUが急増 → 冷却ソリューション需要
- 家電は、空冷と水冷のモジュールを提案



ドローン/ロボット市場

次世代小型・高出力モータ開発時の熱処理対策

- ドローンやロボットでは、小型・高出力・高密度モータ需要が今後拡大 → モータ発熱問題へのソリューション



■ 当社のトラクションモータシステムが量産車に初採用



广汽新能源汽车有限公司の新型量産EV「Aion S」に当社E-Axleが初採用

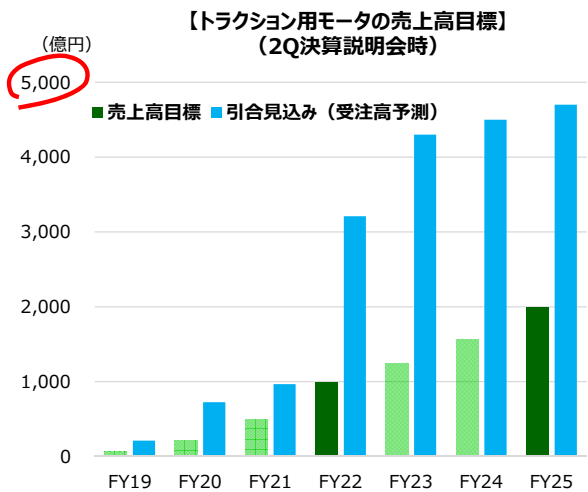


广汽新能源汽车「Aion S」



日本電産「E-Axle」

- モータとインバータ、ギアを一体化し小型・軽量化を実現。
- 最大出力150kW、最大システム出力トルクを3,900Nmまで向上させながらも、重量を87kgにとどめています。（同クラスガソリンエンジンの一般的重量は160kg前後）





日本電産グループ企業の新拠点集積構想を策定、One Nidec体制を加速化



京都市南区の本社ビルとJR向日町駅（向日市）間の駅東側の立地

【概要】

住所 : 京都府向日市森本町  
敷地面積 : 約60,000平方メートル  
建物床面積 : 約154,700平方メートル  
建物の構成 : 事務所棟 1棟（第二本社：15階建）  
生産研究棟 3棟  
（A棟：6階建）  
（B棟：8階建）  
（C棟：9階建）  
投資予定額 : 土地・建物、設備等 総額約2,000億円

【竣工時期】（予定）

第一期：2022年3月見込み A棟、C棟一部  
第二期：2025-2026年 B棟、C棟残り  
第三期：2030年 第二本社  
（※事業ニーズを踏まえ、段階的な建設を予定）

【人員計画】

当社の規模拡大に伴い一部機能を移すとともに、日本電産シンボの研究開発拠点の新設や日本電産リードの本社移転も第一期として実施予定。最終的には5千人体制を目指す。

<https://www.nidec.com/ja-JP/corporate/news/2019/news0108-01/>

15



お問い合わせ先

日本電産株式会社 IR・CSR推進部

Tel : 075-935-6140

E-mail : ir@nidec.com

16



# 業績推移・ 製品グループ別状況

## 利益ある高成長の飽くなき追求

- ① 連結売上高目標 2兆円  
(新規M&A 約5,000億円を含む)
- ② 内、車載売上高目標 7千億円～1兆円
- ③ 連結営業利益率目標 15%以上
- ④ ROE (株主資本利益率) 18%以上  
(株主資本比率60%を前提目標)
- ⑤ グローバル5極経営管理体制の確立

# 「6千億円×3本の柱」が軸となる新たな2兆円企業集団へと脱皮



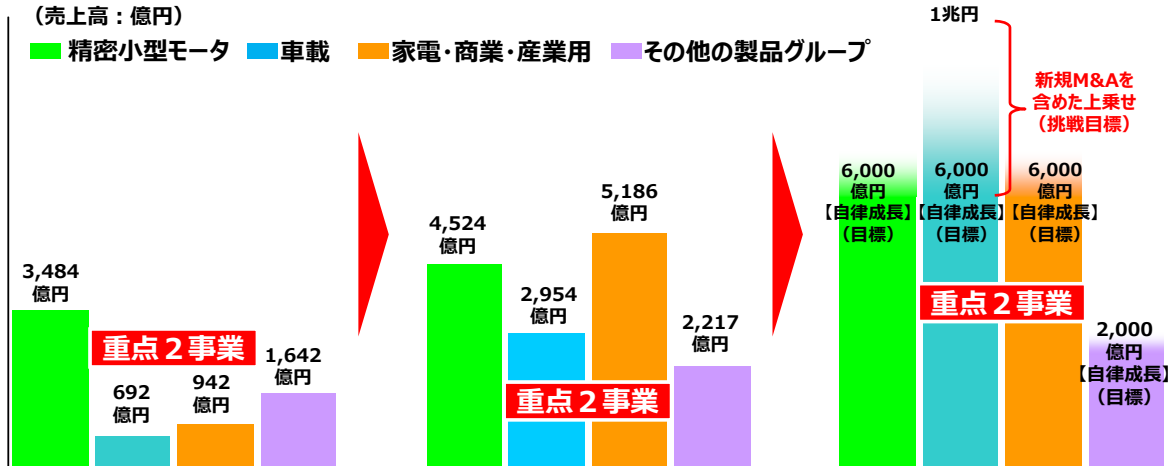
2010年度  
売上高：6,760億円

2017年度  
売上高：1兆4,881億円

2020年度  
売上高：2兆円（目標）

(売上高：億円)

■ 精密小型モータ ■ 車載 ■ 家電・商業・産業用 ■ その他の製品グループ



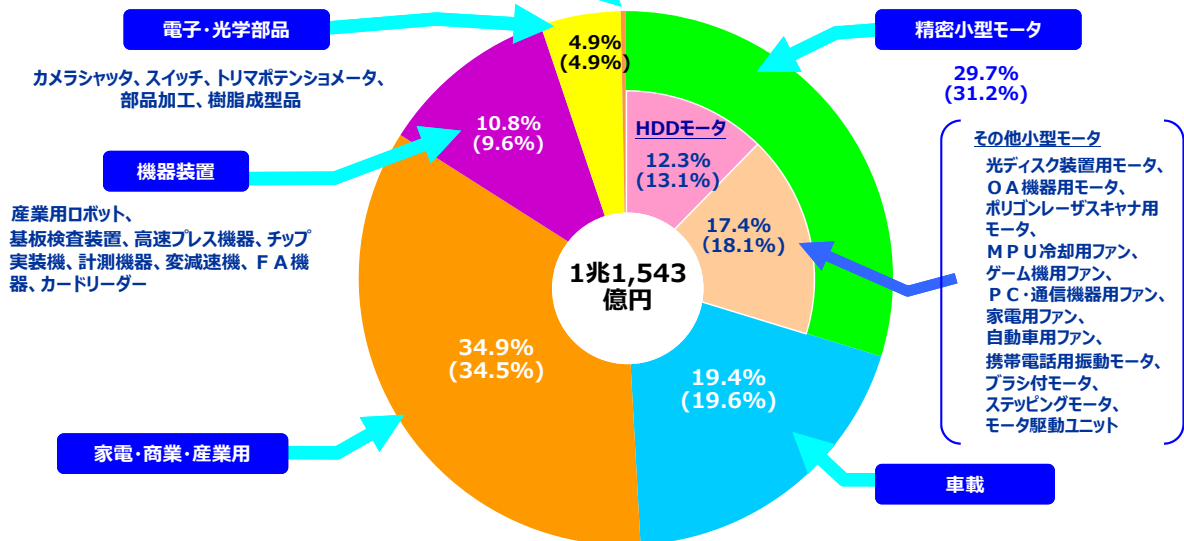
# 18年度第3四半期（累計）製品グループ別売上構成



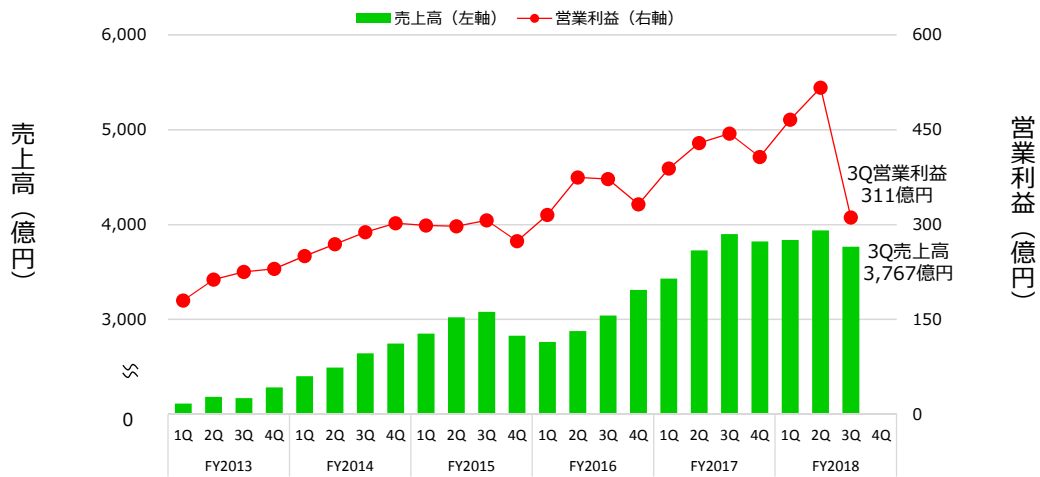
サービス、オルゴール関連商品 0.3% (0.3%)

その他

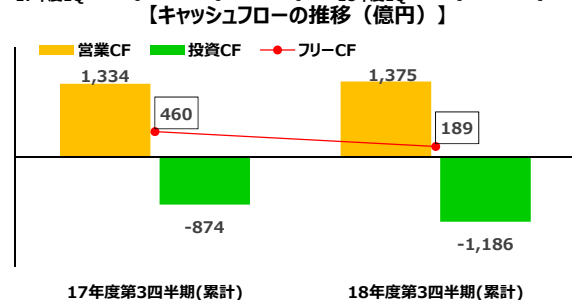
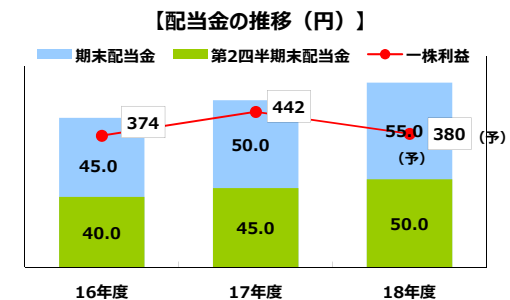
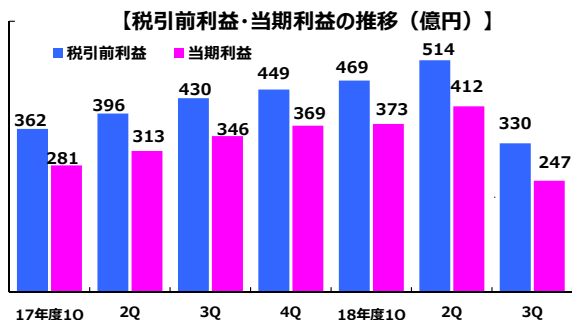
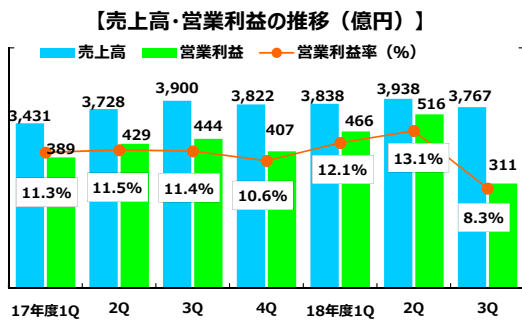
( )内のパーセントは昨年度の構成比率



## ■ 四半期別の業績推移（連結売上高・営業利益）



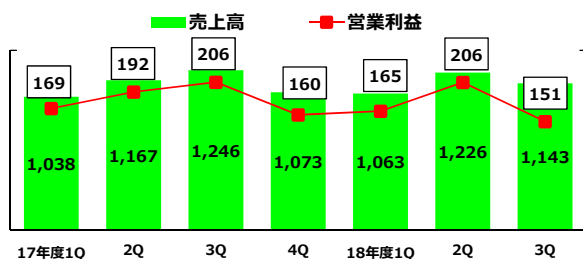
## 連結決算ハイライト



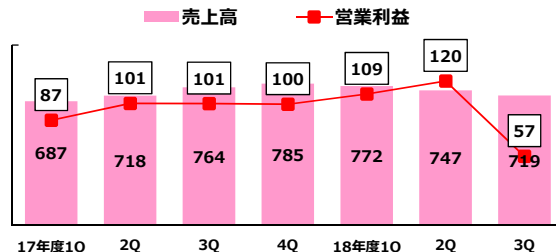
# 製品グループ別業績推移



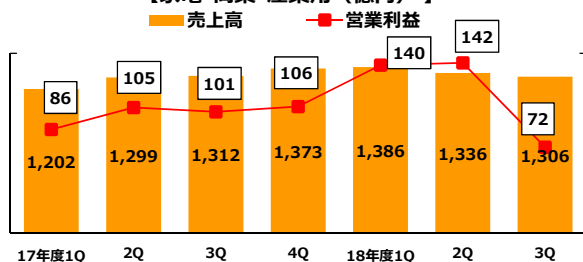
【精密小型モータ（億円）】



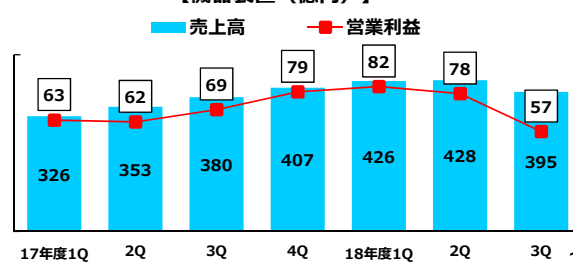
【車載（億円）】



【家電・商業・産業用（億円）】



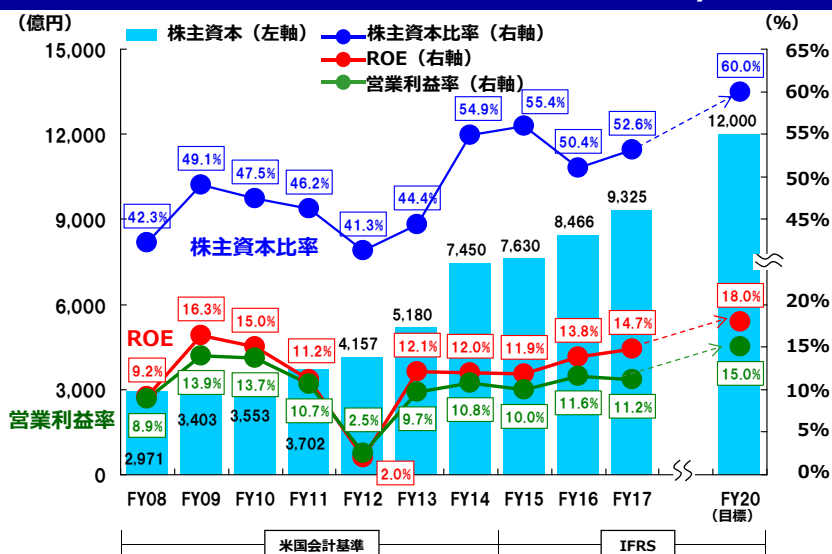
【機器装置（億円）】



# Vision2020 : 利益ある高成長と財務規律の両立



財務規律を維持・向上させながら 営業利益率15%/ROE18%を狙う



**三位一体のROE向上**

- ・ 売上高純利益率
- ・ 総資産回転率
- ・ 財務レバレッジ